

キメの細かさの特徴の国産アコヤパール。粒はそれほど大きくないが、質の良いものは七色に輝く。（色はホワイト）

ほんのりやさしいピンクは、多くの人に愛されている色あい。（国産アコヤパール）

グレーパールは、寒色系の洋服と合わせて、普段着で楽しむのもオススメ。ほんのり虹色がかっているのは、上質な真珠の証（国産アコヤパール）

大きな黒蝶貝からとれる黒蝶パール。孔雀の羽を連想させる色合いは、ビコック（孔雀）カラーと言われ、人々を魅了する。（タヒチ産）

● 真珠の歴史

真珠の歴史は古く、日本では、真珠で飾られた宝物が正倉院にあり、その時代にはすでに装飾品として身につけられていました。ヨーロッパでも大変珍重され、およそ貴族しかつけられない代物でした。養殖真珠が発明されていない時代は、海にもぐっては貝を開けて真珠を探していました。真珠は、まさに偶然の産物だったんです。

しかし、明治時代、世界ではじめて日本人が真珠の養殖に成功しました。《世界中の女性の首元を真珠で飾りたい》という言葉で有名な御木本幸吉、そして西川藤吉と見瀬辰平らが、「パールを作ってやる」という大きな信念のもと、真珠ができる仕組みを解明。養殖技術確立した彼らの努力により、世界の人々にとってパールは身近なものになりました。

また、当初はあまり歓迎されなかった養殖真珠ですが、今や日本の真珠は、なくてはならない存在になりました。

養殖に成功したからこそ、量産も可能となり、多くの方が真珠を身に着けられるようになりました。

● 真珠の種類

日本の真珠は、アコヤ貝からできる「アコヤパール」が一般的です。その他、真珠には大まかに三つの種類があります。タヒチ近辺でとれる黒蝶貝からできる「黒蝶パール」、オーストラリア近辺でとれる白蝶貝からできる「白蝶パール」そして、淡水でつくられる「湖水パール」です。

貝は、異物が侵入すると、自分を守るうとしてカルシウムとタンパク質で異物を包みます。これが真珠です。カルシウムとタンパク質の層が交互に包んでいく

別名、月の雫。 世界を魅了する、神秘的な輝き。

ため、真珠特有の絶妙な色合いが出るんです。

玉の色は様々ですが、ピンク、白、クリーム色、シルバー（グレー）、黒などに分けられます。できる貝によって色や形、大きさも変わります。

● パールの魅力

真珠の美しさを象徴するその輝きは、実は表面だけのものではないんです。光が、真珠にある核まで透過して反射した輝きに加え、表面コートによって真珠特有の虹色が出ます。また、そうした輝きは、真珠を着けた人を美しくみせてくれます。真珠のネックレスは、顔まで華やかにしてくれるのが特徴です。あと、よくいわれるのが、〃真珠は、日本人女性の肌に一番合う〃ということです。

いい真珠を着けると、肌が華やいできれいに見えます。真珠を

六月の誕生石、真珠。

厳密に言えば宝石（鉱物）ではなく、貝から生まれた海産物です。しかし、太古の昔から珍重され、人類にとって《世界最古の宝石》とも言われています。

「満月の夜、月の雫を飲み込んで、貝が大切に育てたものが真珠である」、「人魚の人知れぬ涙が貝の底で真珠になった」。こうした神話や伝説は、真珠のうつくしさとその神秘性が、時代を超えて私たちの胸を打つことを物語っています。

奇しくも、六月はジュンブライド[®]。

ハレの席に真珠を身につける人は、多いことでしょう。

高山市本町にあるジュエリーBE（ビー）の北村一寛さんに、真珠の魅力についてお話を伺いました。

買う際には、実際に着けてみるとが大切です。真珠の色味とお肌の色、体格なども考慮しながら、ベストなものを選びましょう。

● パールの着こなし

フォーマルからカジュアルまで、様々なシーンで楽しめるのは真珠の魅力のひとつです。

よく言われるのが、ハレの日は白いパール、お悔やみの際はグレーまたは黒いパールというルール。しかし、実はそんなルールはないんです。グレーパールや黒いパールは、結婚式や披露宴で着けていただいても何ら問題はありません。むしろ、コーディネートとしてもとり入れられてもいいと思います。ただし、その場合は明るい色味のドレスと合わせましょう。明るいドレスにグレーや黒のパールを合わせると、ぐっと素敵な印象になります。